

研究課題名	誤嚥性肺炎に対する摂食嚥下マニュアルの有効性の研究
研究の意義・目的	<p>誤嚥性肺炎とは、いわゆる「飲み込み違い」によって食べ物や飲み物、唾液などが気管に入ることによって引き起こされる肺炎になります。この原因としては、加齢に伴う嚥下機能低下（老嚥）、虚弱や活動性の低下、さらには挿管などの医療行為によっても生じます。令和3年度の厚生労働省の人口動態統計には、死因第5位の肺炎とは別として、死因第6位にこの誤嚥性肺炎が挙げられており、医療安全の面からも予防対策が必要とされる疾患になります。</p> <p>当院では、この誤嚥性肺炎の予防を目的に、リハビリテーション委員会摂食嚥下部会・医療安全委員会・病院看護部の監修の下、摂食嚥下マニュアルを策定し2022年3月から導入を開始しています。本研究の目的は、摂食嚥下マニュアルの導入に伴う誤嚥性肺炎の発生率の変化を調査し、さらにその結果を基に改良を行い、誤嚥性肺炎の予防対策を強化することにあります。</p>
研究を行う期間	「機関の長の研究実施許可日」～2028年1月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	<p>2017年9月～2027年8月に大阪公立大学医学部附属病院に入院された方のうち、下記4点のいずれも該当しない方が対象となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院時年齢が15才未満の方 ・2泊3日の入院の方 ・重症ケアユニット（ICU・ECU・HCU・CCU・救命救急病棟）に直接入院された方 ・産科に入院された方
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 患者基本情報：年齢、性別、身長・体重、主病名（もともと医療資源を費やした病名）、誤嚥性肺炎病名（疑いを含む）の有無、入院日・退院日、主科名、入院時病棟名、手術・麻酔の有無、有る場合には手術名と手術日・麻酔方法 ② 摂食嚥下評価マニュアルにおける評価項目：EAT10質問表の回答・RSSTの結果 ③ リハビリテーション（理学療法・作業療法・言語療法）介入の有無・介入開始日時・終了日時、ADL評価（Barthel Index）初診時・終了時 ④ 嚥下内視鏡検査結果・嚥下造影検査結果
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院リハビリテーション科のみで行い、他の機関に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院リハビリテーション科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 整形外科/リハビリテーション科 研究責任者：池淵 充彦
本研究の利益相反	<p>利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。

連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 整形外科学 (担当者氏名) 池渕充彦 電話番号 : (06) 6645-3851
-----	---